

飛躍的な発展を遂げる「生成AI（ジェネレーティブAI）」

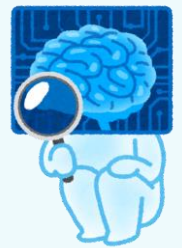
ChatGPT（チャットジーピーティー）の登場により一気に注目されるようになった「生成AI（ジェネレーティブAI）」。現在急速な発展を遂げており、ChatGPTもしくは生成AIという言葉を受けない日はないほどです。

■生成AI（ジェネレーティブAI）とは ～ 従来のAIとの違い

従来のAIの主な使用法は「**予測と結果の出力**」です。情報の整理・分類を学習、それらの結果から特定や予測を行い、結果を出力するというものです。

例えば、「**正しい商品状態とそうでない状態を学習させることで、工場の生産過程での不良品を検知する**」「**過去の売上状況、顧客情報、需要変化などのデータを学習させ、精度の高い需要予測を行う**」といったことに使われ、業務の自動化や効率化に活用されてきました。

これらはあくまで「**決められた行為の自動化**」（引用：野村総合研究所）であり、新しく何かを創造しているわけではありません。



しかしChatGPTをはじめとする生成AIは、**情報のパターンや関係性を学習**させることで、**新しくコンテンツを生み出す**ことを目的としています。

生成AIが作り出すコンテンツは、**文章、画像、音声、音楽、動画**といったものがあり、生成されるコンテンツの精度の高さ、技術の発展によるツール自体の利用のしやすさから、一気に注目を浴びるようになりました。

■生成AIの活用例

新たな産業革命の起爆剤にもなりうると言われている生成AI。活用を検討している企業も多いですが、しかしその4分の3近くが**具体的な活用イメージが湧かない**と回答しています。（引用：帝国データバンクプレスリリース（PR TIMES）<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000676.000043465.html>）
では、具体的にはどのような活用例があるのでしょうか。

例えば「**文字起こしや翻訳**」。文字起こしAIを使えば、会議やコールセンターの録音データを入力することで、自動的にテキスト化してくれるので、業務の効率化につながります。

また「**文章生成**」。営業文章の作成だけでなく、アイデア出しやプログラミングコードの生成なども可能です。

■生成AIをめぐる動き

企業でも続々と生成AIの導入が進められています。パナソニックは国内のグループ全社員に向けてAIアシスタントを導入、ベネッセでも独自の社内AIチャットを開発、全社員に提供を開始しました。

また、日本マイクロソフトは**今後あらゆる製品にAI機能を搭載していく**とし、**AIを活用した中堅中小企業への支援に関する説明会**も実施しました。



あまりに急速に発展する生成AI、しかし**環境整備が追い付いていない**のも現状です。

不当な**個人情報の収集**や、生成されるコンテンツの**著作権、肖像権、パブリシティ権**などの**権利侵害のリスク**、**誤情報の流布**など、課題は山積みです。

ですが、世界的に見てももはや生成AIの発展・拡大は止められるものではなさそうです。

ビジネスにSNSを活用 ～YouTube編～

YouTubeは国内月間利用者数6,500万人、**世界最大級の動画共有・配信プラットフォーム**です。特に新型コロナウイルスの流行以降にYouTubeの利用が増えたと回答した人は74%に達しています。(※)

ユーザーの年齢層は**10代～50代と幅広く**、YouTuberによる「インフルエンサーマーケティング」は他のSNSと比べても大きな市場です。

また**Google検索結果にはYouTube動画も表示**されるようになっているため、YouTubeだけでなくGoogle検索からの流入も期待できます。

動画の制作が負担ですが、その反面**ビジュアルと音声で訴求が可能**となり、ブランドを魅力的に訴求しやすいです。



※出典：Google社 『月間6,500万人を超えたYouTube、2020年の国内利用実態——テレビでの利用も2倍に』
<https://www.thinkwithgoogle.com/intl/ja-jp/marketing-strategies/video/youtube-recap2020-2/>

アカウントは無料

一般ユーザー用アカウントとビジネス用アカウントの区別はなく、**どちらも無料**。

Googleアカウントを作成してYouTubeにログインするとチャンネル作成できます。



広告出稿

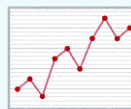
動画広告のほか、リスティング広告やバナー広告などの出稿もでき、広告文章が画像だけでも配信が可能。

ユーザーの地域や興味・関心などを基に広告を表示。



分析機能

YouTubeアナリティクスを使い、動画の再生回数や視聴者数、閲覧しているユーザーなどのデータを分析。YouTubeアカウントがあれば無料で利用が可能。



新しい機能が続々

AIによる自動翻訳吹き替えを2024年に正式に実装する予定で、現時点では英語をはじめとする一部の言語のみですが、将来的には多くの言語がサポートされるとのこと。



TKC会員関与先様限定ホームページサービスのご紹介

オンライン決済にも対応！

BEST ホームページ

の「自社制作プラン」(*)は

**初期費用無料！
月額6,050円(税別)が3ヵ月無料！**(※2)

(※1)「自社制作プラン」は、TKC自計化システム(e21まいスター、FX2、FXクラウドシリーズ)をご利用中の関与先様にご提供しております。TKC自計化システムをご利用でない関与先様へご提供する商品もございますのでお気軽にお問合せください。
(※2)月額費用3ヵ月間無料=お申込みいただいた月の翌月から3ヵ月間無料



「決済機能付きフォーム」で
オンライン決済対応
クレジットカード決済にも対応



採用活動に強い
求人情報専門の検索エンジン(*)に
自動連携で応募者獲得をサポート
(*)Indeed、Google しごと検索に連携(2021/4/12現在)



動画かんたん掲載
他社との差別化、理解促進・購買促進に効果的

スマートフォン自動対応
レスポンスデザインで手間なし自動対応



バックアップ機能+常時SSL
でセキュリティ万全
過去の編集記録に復元できる機能が安心

サービスの詳細はサービスサイトでご紹介しております。是非ご確認ください。

サービスサイトURL <https://www.tkc.imobile.co.jp/>



サービスサイト
QRコード

発行：アイ・モバイル株式会社（株式会社TKC関連会社）

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-42-2 VORT外苑前Ⅲビル3階

TEL：03-6743-7950 FAX：0120-937-255

オンライン決済にも対応！BESTホームページ導入サポートダイヤル：0120-957-705

営業時間：9:00～18:00（土日、祝日、年末年始を除く）

URL：<https://www.imobile.co.jp/>

